

型車が好調で、長野県内でもシェアを伸ばしている。同社によると、昨年4月〜今年2月に県内で販売された新車台数のうち（軽自動車含む）、マツダ車が占める割合は5・2%。広島県に次ぎ全国で2番目に高いシェアだった。

県内での好調さを踏まえ、小飼社長はあいさつで「長野県を故郷に持つ私にとつて大変うれしい。この店が全国の模範になるようさらに飛躍する努力をお願いしたい」と激励。甲信マツダの村上浩社長は「より一層お客さまから選ばれ続ける販売会社へと成長していきたい」と話した。

信大准教授らが 寝具開発新組織

産学官で連携

信州大繊維学部（上田市）の吉田宏昭准教授（42）は感性工学Ⅱや布団製造・販売の桜道ふとん店（静岡県御殿場市）などをつくる産学官連携組織の「感性応用計測研究会」は25日、研究会内に寝心地を分析・研究するグループ

をつくり、一人一人の体や寝ている時の姿勢に合った寝具の開発を始めたと発表した。吉田准教授らは今年2月、寝ている時の姿勢を計測できる装置を製作。数カ月後には、データに基づいて快適性を高めたオーダーメイドの敷布団を製造できる見通しだ。

計測装置は、縦約240センチ、横約90センチのベッド状で、中央部分の幅60センチに約1万9千本の突起を付けた。人が測定部分に横たわると突起が沈み込み、突起の下にある圧力センサーが体圧の分布を測定する。突起の沈み方で体の沈み込みの深さもすぐに分かる。吉田准教授は「衣服を作るため採寸するように、寝る姿勢を計測することが一人一人に合った寝具の開発に必要と考えた」と話す。

吉田准教授と桜道ふとん店は2010年ごろから布団作りに取り組んでいる。同研究会に所属し、靴の中敷きを個人に合わせて作るため体圧分布や沈み込みを同時に計測していたエヌ・ウェーブ（北安曇郡白馬村）や、県テクノ財団浅間テクノポリス地域センター（上田市）が加わり、上田市内の製造業3社とも連携して新たな計測装置を作った。

今後、学生ら100人以上の計測データを積み上げていくといい、吉田准教授は「体に合わずに我慢するといったことのない寝具を開発したい」と話している。



安眠できる寝具の開発のために作った計測装置を紹介する吉田准教授（奥）